

1P99

新型コロナウイルス感染症流行下で行ったWebを活用した在宅移行支援

金田 友花、渡邊 裕美、高梨 都、森 輝美

鳥取大学医学部附属病院 病棟 3 階 B

【はじめに】

医療的ケアが必要な児の在宅移行支援は、入院早期から多職種が介入し、児の在宅での生活をイメージした療育環境の調整、指導を行う事が重要である。新型コロナウイルス感染症流行下における医療的ケアを必要とする児に対し、Webを活用した多職種連携を行い、円滑な在宅移行支援に繋がった事例について報告する。

【目的】

新型コロナウイルス感染症流行下において、Webを活用し円滑な在宅移行支援を行う。

【倫理的配慮】

個人が特定されないよう配慮し、看護部倫理審査会の承認を得た。

【事例と経過】

A児は出生時より染色体異常・先天性疾患があり、他院で心臓手術後、当院へ入院となった。入院早期から退院を見据えた試験外泊に向け、看護師が経管栄養の注入方法や蘇生方法をパンフレットにまとめ、退院までに行うことを盛り込んだタイムスケジュールを作成し、両親にケア指導を行った。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、退院前後で実施していた自宅訪問ができないため、自宅の間取りや機器の配置についての家屋調査を医療機器メーカーへ依頼し情報を得た。また、従来は地域関係者と数回に分けて実施していたベッドサイドでケアの引継ぎをWebカンファレンスで情報共有を図った。外泊前後と退院前にWebカンファレンスを開催し、訪問看護師および保健師を対象に、指導内容と両親のケア習得状況の引継ぎを行った。家庭環境や家族の生活リズムを考慮し、物品の手配および児のケア時間の調整を行い、1か月の入院期間で2回の試験外泊を実施し退院することができた。

【考察と今後の課題】

新型コロナウイルス感染症流行下における医療的ケア児の在宅移行支援は、地域で関わる多職種と直接会えない中での連携と情報共有が重要である。両親へのケア指導を入院早期から繰り返し行うことで、両親が退院までのスケジュールをイメージでき、必要なケアの習得に繋がったと考える。さらに多職種でWebカンファレンスを行い、地域と情報共有を行ったことは、円滑な在宅移行支援の引継ぎへと繋がったと考える。

今後は、実際のケアの様子を動画で共有するなどし、詳細なケアの引継ぎができるようにしていきたい。

1P100

乳児健診の身長計測における身長計測アプリの有用性

河野 由美¹、小枝 達也²、阪下 和美²、秋山 千枝子³¹自治医科大学小児科²国立成育医療研究センター³あきやま子どもクリニック

【目的】

感染症流行時のオンライン健診を想定した場合、家庭では身長計を用いた身長測定は困難である。そこで、公開されている身長計測アプリを用いた乳児の身長計測の有用性を検討した。

【対象と方法】

3施設を受診した生後3か月以上12か月未満の乳児を対象とした。身長計を用いて通常の方法で身長を計測し（以下実測値）、同時に各施設1名がタブレットまたはスマートフォンにT社が公開している身長計測アプリをダウンロードし、使用手順に従って身長を測定した（以下推測値）。実測値と推測値の差、相関、影響する要因等を検討した。統計ソフトはJMP12を用い、 $p<0.05$ を有意とした。研究は保護者の同意を取得して実施した。

【結果】

合計102名（1施設あたり30～38名、男62名・女40名、早産36名）で実測値と推測値を測定した。測定時の修正月齢の平均（SD）は6.1（2.6）か月、体重7.4（1.4）kgであった。実測値の中央値（IQR）は65.8（7.6）cm、推測値は70.4（15.7）cmで2名の推測値は外れ値であった。2名を除外するといずれも正規分布となり、以下の解析は100名で行った。実測値の平均（SD）は65.2（4.9）cm、推測値70.6（9.5）cmと有意差（ $p<0.0001$ ）を認め、相関係数 $r=0.382$ （ $p<0.0001$ ）の弱い正の相関を認めた。性別で相関係数に差はなかったが、測定者間で $r=0.383$ （ $p=0.036$ ）、 $r=0.643$ （ $p<0.0001$ ）、 $r=0.280$ （ $p=0.097$ ）と差を認めた。単回帰分析による回帰式は、推測値 $=22.39+0.739 \times$ 実測値（ $R^2=0.15$ 、RMSE=8.84、 $p<0.0001$ ）となった。測定者と性別を入れた重回帰分析では、実測値と測定者が推測値の有意な説明変数であった。修正月齢を用いて月齢別に求めた低身長（標準値の3パーセントイル未満）の割合は実測値11%、推測値19%で有意差を認めなかった。

【結論】

身長計測アプリを用いた乳児の身長推測値は実測値にくらべ大きく、アプリを使用する測定者により相関に差が認められた。使用した機器の違い、測定者の手技や回数、実測値がブラインドであったか、対象児の着衣状態や活動度等の影響が考えられた。身長計測アプリによる身長推測値のオンライン健診での活用には、より厳密な計測方法の説明や統一が必要と考えられた。